

## 狩勝高原園地再整備事業計画案パブリックコメントにおける提出意見と回答

### 1. パブリックコメントの実施概要

実施期間 平成29年8月15日（火）～9月15日（金）

公表場所 役場産業課、役場屈足支所、町図書館、町ホームページ

意見提出方法 郵送、FAX、メール、持参

提出意見

- (1) 提出意見件数 52件
- (2) 意見提出者 10名
- (3) 意見の内容
  - ① 事業計画について 8件
  - ② 整備内容について 25件
  - ③ 計画の展開方向について 18件
  - ④ その他 1件

### 2. 提出意見と回答

- (1) 事業計画について
- (2) 整備内容について
- (3) 計画の展開方向について
- (4) その他

(1) 事業計画について

No	分類	ご意見（概要）	回答
1	事業計画	「子供」「高齢者」「障がい者」「食」「自然」「歴史」「観光」「農」「林」「情報発信拠点」「職業実習」と施設本体ですら「庭園＋鉄道」と2要素が絡んでいるにもかかわらず、要素を詰め込みすぎて、地に足がついていないと感じます。	本事業は、情報発信などの観光インフラを再整備するものであり、多くの方面に有益な効果をもたらす役割があります。地域内部の様々なつながりを強化するとともに、それらと地域外部とのつながりを強化し、地域への経済波及や活性化を図ろうとするものです。
2		経済効果が観光消費だけではなく地場産業の拡大に発展していくような計画を望みます。	
3	事業費	なぜこんなにお金がかかるのか。この内容ならここまでかかなくてもすむと思う。	一般的に公園整備にかかる工事費は1万円/㎡とされており、狩勝高原園地は面積が20ha以上あり、整備費は5,500円/㎡で一般的な公園整備よりも低減しています。この中で、有料区域、無料区域で整備密度にメリハリをつけて整備します。また、再整備による経済波及効果は、園地単体で年間70,564千円、周辺施設への波及を含めると年間934,834千円の効果があると試算しており、情報発信などの観光インフラとしての整備効果は十分にあると考えます。
4		人口が減少していく日本社会で、再整備費用の回収が出来る事業に見えない	
5		民間の考え方で行けば、11億円は負債であり返済の必要がある金です。独立した会社として収益を上げ、町から投資された額も回収、返済するビジネスプランを希望します。	
6	整備順序	『段階的な整備』の整備順序は、有料ゾーンが主となりますがイニシャルコストは勿論、整備後の来園者に見て頂く様な質の高いメンテナンスコストが当初より掛る整備方針はおかしいと思います。新得の様な場所で来園者数が確保できるとは思えない。また、整備後良くない評判が立てば、その後の整備計画、実施は意味のない物となり観光地化等目標とする方針に逆行計画と成りかねない。	狩勝高原エリアの観光客数は年間約200,000人で、そのうち4月から9月の観光客数は約70,000人、宿泊客数は約35,000人であり、有料ゾーンの来園者見込み35,000人は妥当な数字と考えます。また、整備効果は有料ゾーンによって発現されますが、ガーデンとしてオープンさせるためには2年から3年程度しっかり育てていく必要があります。またガーデナーの養成期間も必要なことから、有料ゾーンから整備を進めていきます。
7	整備方針	狩勝高原園地は、新得の四季を通じて次々に見せられる自然の持つポテンシャルのある空間を活かし、チマチマした計画でなく、今育っている自然のようにダイナミックな空間を失わなければ、必ず対外的および新得の将来の財産として認められる空間となり、多くのリピーターが訪れることになると考えます。くれぐれも人工的ですがすぐに人々が飽きてしまう施設を先に整備しない事をお願いしたい。	ご意見のとおり、狩勝高原園地には様々な見所があり、それを観光客に楽しんでもらうための仕組みが必要と考えます。市街地にはない自然の景観、季節変化を感じてもらい、違う季節にまた来たいと思ってもらえる体験を提供していきます。

No	分類	ご意見（概要）	回答
8	評価検証組織	計画現地説明会の参加者数をみても、計画の認知度は低いと思わざるをえない。また各種活性化事業や催事の参加も満足できない。周知不足を反省すべきである。平成32年度オープン、できるところから着工、町づくり推進協議会で検証とあるが、形式的にならないか。計画の見直しから運営助言まで中期的に関わる別組織とした方が役立つと考える。	ご意見を踏まえ、再整備事業計画の進捗管理や評価検証、狩勝高原園地の運営に関して助言提案を行う外部組織の設置を検討します。

(2) 整備内容について

No	分類	ご意見（概要）	回答
1	ゾーニング	全体有料ゾーンの小ゾーンの種類の多すぎ規模が小さすぎる。対外的にアピールする為にはそれなりのダイナミックさが必要で狩勝の自然の大きさに負けてしまう。街の中の「都市公園」ではないのです。	この場所は狩勝高原全体のビジターセンターの役割も果たし、まずは足を運んでいただく場所として、地形や景観、植生に配慮し、多様な体験と土地の特色を体感できるように計画しています。この場所を訪れることで周囲のダイナミックな環境やアクティビティなどを知っていただき、観光の入口となることを目指しています。
2	ターゲット	鉄道ファン及び模型ファンと高山植物ファンはなかなかリンクしないものと思います。	ガーデン観光における今後の課題として、愛好家の高齢化や減少が課題と認識されており、若い世代の取り込みや別ジャンルとの連携による興味層の拡大、他ガーデンとの住み分けが必要と考えています。そこで、狩勝高原園地では、「子どもと一緒に楽しめるガーデン」を基本方針とし、ターゲットを祖父母・父母・孫の3世代家族連れと設定しています。3世代で楽しめるガーデンで、庭園鉄道というオリジナル要素が他のガーデンとの差別化を明確にし、若年層の取り込みによって新しい客層を獲得していきます。
3		ブームのガーデニングは今や厳しい状況にあると思われま す。もちろん根強いマニアはいて、彼らにはブームなど関係 なくブーム以前から継続されてきた方々が多々でしょう。し かし、庭を見て楽しむ方々は鉄道に興味のない方がほとんど ではないでしょうか。ちなみに鉄道ファンの多くの方々は、 花はほとんど興味の対象になっていません。もちろん行政は マニア相手だけに観光を進める訳ではないと思いますが、そ れにしても、それをくっ付けて二度美味しいと考えていると したならば、それはあまりにも安易だと思われま	
4		ターゲットとする観光客像をより明確にしての計画が必要 かと考えます。	
5		鉄道好きは花に興味はない。	
6		植栽計画	
7		あじさい園はどうですか。	
8	キッチンガ ーデン	ここで行われる植物の栽培が、新得の花弁栽培振興へと発展 していくことを望みます。概要書に例示されている植物は購 入するものばかりのようですが、それを逆に生産できるよう になれば地域の発展につながるのではないのでしょうか。	「はじまりの森ゾーン」に設ける「水辺の森」にて、この地域に自生 する植物を基本とした植栽を予定しています。あじさいについては、 園地全体の植栽計画の中で検討します。 キッチンガーデンに植栽する苗は、主に事業者からの購入を想定して いますが、ご意見のとおり、町内で調達ができれば経済の活性化につ ながることから、町内事業者での栽培を働きかけていきます。また、 ガーデンカフェでは、梅園の梅やご提案のあった養蜂など、ソフト事

No	分類	ご意見（概要）	回答
9		ガーデンカフェは気軽に立ち寄り、食事と休憩ができる場としたい。ドッグラン、足湯、食べられる植物も魅力。3シーズン花があるので、養蜂、蜂蜜利用などもできるのではないかな。	業の魅力づくりとして検討していきます。
10	庭園鉄道	全長 1,350mを聞いた時にインパクトがあります。でも実際に見て歩くとなると、疲れるし飽きるのではないのでしょうか。手間と費用に見合った効果を考えると、規模の縮小を提案します。	庭園鉄道は、G ゲージ（線路幅 45 ミリメートル、縮尺 1/22.5）と呼ばれる鉄道模型のジオラマと庭園が一体化したガーデンで、線路の総延長は 1,350m となります。現在世界一と呼ばれている 1,250m を超える規模となり、ギネス申請も検討しています。線路は複線化し高低差をつけて配置するとともに、模型から出る音や光の演出を加え、園路はユニバーサル対応とするなど、疲れにくく飽きさせない工夫をしています。また、旧狩勝線をモデルとしたエリアでは、かつての旧狩勝線がそうであったように、鉄道敷設は土木技術の結集であり、構造物の美しさや面白さが伝わるよう工夫をしています。
11		ジオラマに旧狩勝線の再現はうれしい。根室線の先行きが話題となる今、鉄道土木遺産と歴史を紹介するエリアであってほしい。	
12		世界最大級の鉄道模型の庭園ということですが、具体的に世界一の部分を作ることは出来るのでしょうか。もし、せっかく世界一があるのなら PR を兼ねてギネス申請するのはどうでしょうか。実際、ギネスを宣伝に使われる企業がありますし、サホロは国際リゾートです。	
13	高山植物コレクション	生育良好な品種は平地でも育つので魅力がない。高山植物の植栽計画は見直しか中止のほうが良いと思います。	高山植物コレクションは、個々の珍しさではなく、狩勝高原の気候を活かして高山から亜高山帯までを、地形と植生を合わせて表現する日本初の取組です。植栽計画では、現在園地に植栽されているコマクサを移植するほか、狩勝高原のこれまでの気象データを踏まえ、東大雪特有の種類を中心に約 100 種類を選定していますが、高山植物は市場性があまりなく、入手可能量にも差が大きいことから、専門家の意見を踏まえて改めて検討します。
14		地球温暖化であり、高山植物をやってもあの場所ではうまくいかない。	
15		ロープウェイなどを利用して、高山植物を自然の中で間近に見られる観光スポットは道内外にたくさんあります。森林限界を超えた高山にあってこそで、人工的に低地に移植したものではありません。魅力に欠けるように思います。	
16		高山植物はデリケートで、高度差、土壌環境など異なり、日高、大雪の区分などよくばりすぎ。成長も遅いので、種類も十分に吟味が必要。	

No	分類	ご意見（概要）	回答
17	はじまりの森、風の丘	千年の森とイメージがかぶり独自性に乏しいように感じます。その中で「水辺の森」のコンセプトは新得らしさを見せることができるので、中心として展開してはいかがでしょうか。ただし、既に「太四郎の森」が存在するので模倣とならないよう、新得らしさの追求が必要です。	狩勝高原園地は、「子どもと一緒に楽しめるガーデン」を基本方針にターゲットを祖父母・父母・孫の3世代家族連れに設定し、コンセプトを「3世代で楽しむ自然体験型ガーデン」としています。見るだけでなく、鉄道という狩勝の歴史を学んだり、水や風、森や草原といった自然の要素に触れたり、石や木など様々な素材に触れるなど、自然との調和や不思議の発見、学びといった体験的要素を取り入れた他にはないガーデンを目指しており、それらを体験できるソフトプログラムの充実も図っていきます。
18	既存資源や事業者との連携	新得町にあるブルートレイン、SLなどを再整備して、甦らせることを提案します。SLは走ることはできなくても、実際に火を入れ汽笛を鳴らすなどが間近で見られるあるいは経験できれば、行ってみたいという動機付けになるように思います。再整備事業の概要書では、園地内のブルートレインについても計画外となっているようですが一体として考えるべきではありませんか。線路跡をどう生かすかも計画の中に入れるべきではと思います。	狩勝高原園地は、新得町観光の入口の一つとして、ビジターセンターやコンシェルジュ機能を持つ「ビジタービレッジ」の役割を担うこととしています。情報発信拠点として近隣施設への送客のほか、ガーデン街道や広域観光周遊ルートと連携したツアー造成など、地域内のつながりを強化する取組を予定しています。また、町内事業者との相互の主体的な連携を積極的に図り、狩勝高原エリアとしての発信力と集客力を高め、町全体へ波及することを目指しています。なお、旧新内駅の蒸気機関車や寝台車両、旧狩勝線については、活動団体と協力して保存や活用を進めていきます。
19		新たな投資は喜ばしいのですが、既存の施設がボロボロになるのに一切お金がかけられず不評になるのは悲しいので何とかならないかなと思っています。	
20		保存SL、寝台車などは貴重な目宝財産、雨ざらしは悲しい。徹底した保存を考えるべき。また、エリア内のエコトロッコ、乗馬、さほろ酒造、サホロリゾートなど先行事業者との連携は欠かせない。広域観光化する今、最大限の知恵と協力関係が求められる。	

No	分類	ご意見（概要）	回答
2 1	旧宿泊施設	敷地内にある旧施設は取得して、生かせるものならば通年営業の核とし、無理であれば更地とする、あるいは管理棟など他の用途として利用してはいかがですか。このままでは見苦しいことは勿論、将来第三者へ転売された時に問題が生ずるのではと危惧します。	所有者に利用計画があり、取得するのは難しい状況です。
2 2	そばの活用	新得＝そばと広く認識されています。そばの品種の見本畑のような取り上げ方は出来ないのでしょうか。	そばは他の品種と交雑しやすい作物のため、複数の品種を同時に栽培することは難しいですが、そばの成長が分かるような展示など、ソフト事業展開の中で検討します。
2 3	桜の活用	桜は神社など町内他の地域にも名所があります。一体として整備することで「桜の追っかけ」を呼び込めたら良いと思います。	情報発信拠点として、町内の桜名所を紹介する地図やホームページなどを作成し、町内への回遊を誘導していきます。
2 4	梅園の活用	現在の新得の財産の『梅園』を来園者に見せられる様に地力を回復し樹勢を回復し、花を咲かせる事で対外的にアピールし、多くの来園者を招くポテンシャルが梅園にはあると考えます。	平成24年度から梅の毎木調査を実施し、その結果、生育状態の良い場所と悪い場所の違いが把握されました。生育状態の良い場所は梅園として継続し、より集中的に管理を行い、悪い場所は伐採して有料エリアとして造成することとしています。なお、悪い場所の生育良好木はそのまま残すか移植することとしています。
2 5	ツルアジサイ	計画図にある「ツルアジサイ活用」のゾーンについては、つるアジサイが鑑賞できるようにと書いてあるが、つるアジサイは林内に入って近くで鑑賞する植物ではない。林内に人を入れると現在の環境が壊れ、長い年月を掛け現在カラ松に絡み成長してきた自然の財産を台無しにする。仮に人を入れるようにするのであれば、地上に園路は、絶対だめ、地上に影響を与えない一人が通れる木道で林内地上に絶対入らない様にする施設が必要。自然環境はとてとてもとてもデリケートです。梅園の駐車場計画などもってのほかです。	ご意見を踏まえ、散策路及び梅園駐車場については、影響を与えない場所及び方法での整備を検討します。

(3) 計画の展開方向について

No	分類	ご意見（概要）	回答
1	運営主体	巨額の事業にも関わらず、この事業を運営したい発足人・責任者がはっきりしていない	再整備は町で実施し、運営は民間企業等による対応を想定しており、再整備事業計画がまとまった後、運営企業等の選定を進めていきます。運営方法については、委託方式か指定管理者方式による対応を検討しており、運営責任やリスク回避については、運営企業との契約の中で明確にしていきます。
2		施設を作る以上、数年、十数年、健全に経営していく手腕と責任が問われます。責任者は誰か、運営する会社はどこか、倒産などのリスクと責任を誰が負うのか、そのことを明確にすべきではないでしょうか。	
3		過去において、狩勝高原サホロリゾート開発関連に関しては負債処理のための多額の税金を投入しています。商売なので儲けが必要ですが、反面、行政が経営することにより、個人・民間業者の経営を圧迫することになりかねません。例えば、町営国民宿舎東大雪荘は難しい立ち位置になっているのではないのでしょうか。行政には特に観光業商売に手を出してほしくありません。	
4	収支計画	評価指標は交流人口に加えて収益の有無が絶対必要と考えます。たとえ自治体であっても赤字前提の観光事業などあってはならないと思います。投資額の完済と事業の黒字化を目指すべきですが、今の事業計画ではいずれもかなり難しいと思わざるを得ず、熟考を望みます。	狩勝高原園地は「子どもと一緒に楽しめるガーデン」を基本方針とし、ターゲットを祖父母・父母・孫の3世代家族連れに設定し、他ガーデンとの差別化を図っています。また、来園者数の見込みについては、狩勝高原エリアの4月から9月の観光客数約70,000人、宿泊客数約35,000人をベースに他ガーデンの動向を踏まえて35,000人と試算し

No	分類	ご意見（概要）	回答
5		過去に狩勝高原園地に行政が計画し建設した過去のものの多くは放置状態に近く、あるものは老朽化の名のもとに取り壊されてしまいました。それは行政のシステムなのかどうかわかりませんが、プロジェクト建設に比べると、その後の維持管理にはそれほど熱心とは感じえない現実がそこかしこに見受けられます。このような状況にあって、11億円の税金を投入して狩勝高原にさらに新しいものを建設すること、建設関係の費用は算出されても年間維持費用は定かでないこのプロジェクトの将来がどうなっていくのか。予想はそう難しくないのではないのでしょうか。	ています。 収支計画では、収入については入園料収入のほか、カフェや物販等による収入を見込み、年間40,600千円と試算しています。支出については、必要な人員体制と他ガーデンを参考に運営経費を計算し、年間57,473千円と試算しています。収支差額-16,783千円が町の維持管理費としての支出となりますが、運営会社の経営努力による圧縮も期待できます。 また、再整備による経済波及効果は、原材料の仕入れや雇用者所得などにより、園地単体で年間70,564千円、周辺施設への波及を含めると年間934,834千円の効果があると試算しており、町経済全体ではプラスとなります。
6		年間入場者数の見込みが甘い。他のガーデン施設等も今は下降気味であり、時代のニーズに合っていない。	なお、全体計画のうち、情報発信拠点、カフェ、トイレなどの管理棟や庭園鉄道などのメインガーデン、駐車場を整備し、集客や収益の状況、運営スタッフのスキル等を見ながら随時事業計画を組み直し、柔軟に対応していきます。
7		庭園の維持管理には整備の後も継続的にかなりの金額がかかることとなりますが、チケット代等だけで運営するのは難しいと言えます。税金を投入しての整備ですから、ある意味において採算を考えずに魅力的な投資が出来るということになるかと思いますが、単独の持ち出しを減らすには何かしら道の駅の併設ですとか、周辺の企業の人的資源を併用する工夫が必要と考えます。	
8		広報に「年間5,800万円の事業収支を計画している」とありましたが、希望的観測ではない「きっちりした収支計算」が見えてこない。	

No	分類	ご意見（概要）	回答
9	維持管理経費	<p>有料であれば将来にわたり人件費を含め多大な運営コストが掛かります。『新得』にとって絶対に「負の遺産」にはならないのです。例えば今の方針で町として『PFI事業』で発注し、受注する民間事業者が絶対いるというぐらい自信がない場合は、やめるべきです。このゾーンで金が儲かりますか？本当に慎重に検討をお願いいたします。現代は、公園事業だからと言って環境とか福祉とかで公共予算を使うべきではないと考えます。長きにわたり事業計画、予算計画を建ててここまで来たことはご理解できますが、新得の将来計画は、人口増加、観光地化、経済波及効果、町の活性化等、どんな事業も失敗できない時期に来ています。</p>	<p>本事業は、狩勝高原園地を新得町の主要観光拠点の一つと位置づけ、再整備によって多方面に有益な効果をもたらすことを目的としています。特に夏の観光資源として、広域観光の拠点としての機能や近隣観光事業者との連携を見据え、将来にわたって魅力ある観光施設としていくため、有料施設とすることで、質の高い維持管理を行っていくものです。再整備は町が実施し、収益事業となる運営や維持管理については、民間企業等による対応を予定しています。さらに、庭園鉄道というコンセプトは新しいガーデンの試みであり、今ガーデンに関心がない客層を取り込む工夫をしています。ファミリー層をターゲットとすることでこの場所を経由して町内の観光施設や体験に誘導することも親和性が高いと認識しています。情報発信機能、トイレ、物販は無料ゾーンにあり、道の駅的な機能を果たすものとして計画しています。</p>
10		<p>ランニングコストのかかってくる「お荷物」を増やすことは将来、子ども達への負の遺産となり、結果として人口の流出に繋がると思います。負の遺産を残さないためにも、狩勝高原園地再整備事業を中止する「英断」が、今必要なのではないのでしょうか。</p>	<p>※ PFI～公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法</p>
11	維持管理体制	<p>庭園鉄道エリアでは、コニファー、ヒース、匍匐性樹木を植栽されますが、樹種選定を間違えると大変です。降雪、凍害などで枯れる樹種、匍匐性樹種は雪腐れ等が発症することがあり、植栽後の維持管理、メンテナンスが重要です。また、客土量が少ないと雑草に負けてしまいます。</p>	<p>施設運営事業者はこれから選定することになりますが、維持管理は他ガーデンを参考にし、通年雇用としては、植物やガーデン管理運営に経験があり、スタッフを総括指導する「ヘッドガーデナー」1名と、ガーデン管理を行う「ガーデナー」4名の体制を想定しています。季節雇用としては、施設管理や場内清掃、案内窓口を担当する「庭・施設管理スタッフ」7名を想定しています。なお、ガーデナーの雇用にあたっては、初年度から必要なスキルのある人材を得られない場合、専門家によるアドバイザーを設けることを想定しており、きちんと管理できる体制を整えます。また、花壇の植栽基盤は客土量を30cmとし、購入客土を使用する予定です。植物の苗は、ガーデナーによる育苗と事業者からの購入を想定していますが、大規模なハウス建築は予定していません。</p>
12		<p>植物にとって環境条件の決して良いとは思えないこの地において、植物の維持管理はどのような体制で行うつもりなのでしょう。かつての新得山麓のように再び花卉育種ハウスを建設されるのでしょうか。育種する人材は確保されているのでしょうか。それとも、全く業者に委託するのでしょうか。</p>	<p>施設運営事業者はこれから選定することになりますが、維持管理は他ガーデンを参考にし、通年雇用としては、植物やガーデン管理運営に経験があり、スタッフを総括指導する「ヘッドガーデナー」1名と、ガーデン管理を行う「ガーデナー」4名の体制を想定しています。季節雇用としては、施設管理や場内清掃、案内窓口を担当する「庭・施設管理スタッフ」7名を想定しています。なお、ガーデナーの雇用にあたっては、初年度から必要なスキルのある人材を得られない場合、専門家によるアドバイザーを設けることを想定しており、きちんと管理できる体制を整えます。また、花壇の植栽基盤は客土量を30cmとし、購入客土を使用する予定です。植物の苗は、ガーデナーによる育苗と事業者からの購入を想定していますが、大規模なハウス建築は予定していません。</p>

No	分類	ご意見（概要）	回答
13	連携協働	狩勝園地が一点豪華に終わらず、新得町発展のシンボルとして大きくなっていくように、地域の協働を目に見える形で行うことを希望します。	食育や自然体験、学校機関の利用、押し花などの日本文化体験、音楽や芸術など、狩勝高原園地を通じて町内の様々なつながりを強化し、地域の活性化を図っていきます。
14	冬期間の営業	再整備するなら庭園鉄道に特化して、旭山動物園のように様々な視点で楽しめる工夫を凝らし、屋内スペースを広くとり冬期間でも営業できる形態を模索すべきと考えます。	ガーデン部分の冬期間営業は難しいですが、屋内でのGゲージ見学やカフェ等の営業、ミニコンサートの開催、雪国ならではの体験など、ソフト事業展開の中で冬期間の営業も検討していきます。
15		スキーリゾートを抱える新得町は、内容によっては冬の集客も望めるはず。通年営業を目指してください。	
16	参加型ワークショップ	ワークショップの対象者は地域外も想定しているのかどうか、それによっては内容が変わってくるかと思われます。	ワークショップは庭園鉄道建設や植栽のほか、イベント広場を活用した参加型イベントの開催など、地域を問わず参加いただける内容を想定しており、具体的な内容については、ソフト事業展開の中で検討していきます。
17	運営組織への支援	常時雇用者4人とあるが、園地管理には専門的知識技術がなければ維持できないので、熱意のある人材の確保が求められる。雑草対策など地味な手作業があつてこそその美観。費用対効果もあるが、人手不足が進行する中、労力確保に創意工夫が求められる。運営管理が民間でも植物の定着安定するまで、一定期間の援助を考えたい。	ガーデンは整備してから充実した植栽を見せられるようになるまで2～3年はしっかり育てていく必要があると考えており、施設の運営にあたっては、実際の人材の能力や経験によって、柔軟な対応が必要と考えています。なお、メインガーデナーの確保は施設の質に関わる問題であり、事業化が決まり次第最優先課題として人材確保に取り組めます。
18	プロモーション	狩勝高原園地の整備計画の一つとして是非、今までの狩勝高原園地中心に新得の四季の良い写真などを町民などから提供していただき日本中に知って頂く覚悟の対外的広報活動計画も立案して頂きたい。	より多くの方に知っていただくことが重要ですので、今後の事業展開の参考とさせていただきます。

(4) その他

No	分類	ご意見（概要）	回答案
1	観光行政のあり方	観光は物だけに頼って人を呼び寄せることではないと考えます。その町に生きる人々のその生き様が観光です。そういう彼らを陰から支えるサポートに徹する事、言わば観光の縁の下の力持ちとしての行政であってほしいと願っています。以上から、私はこの計画の撤回を強く希望します。	今後の観光施策の参考とします。